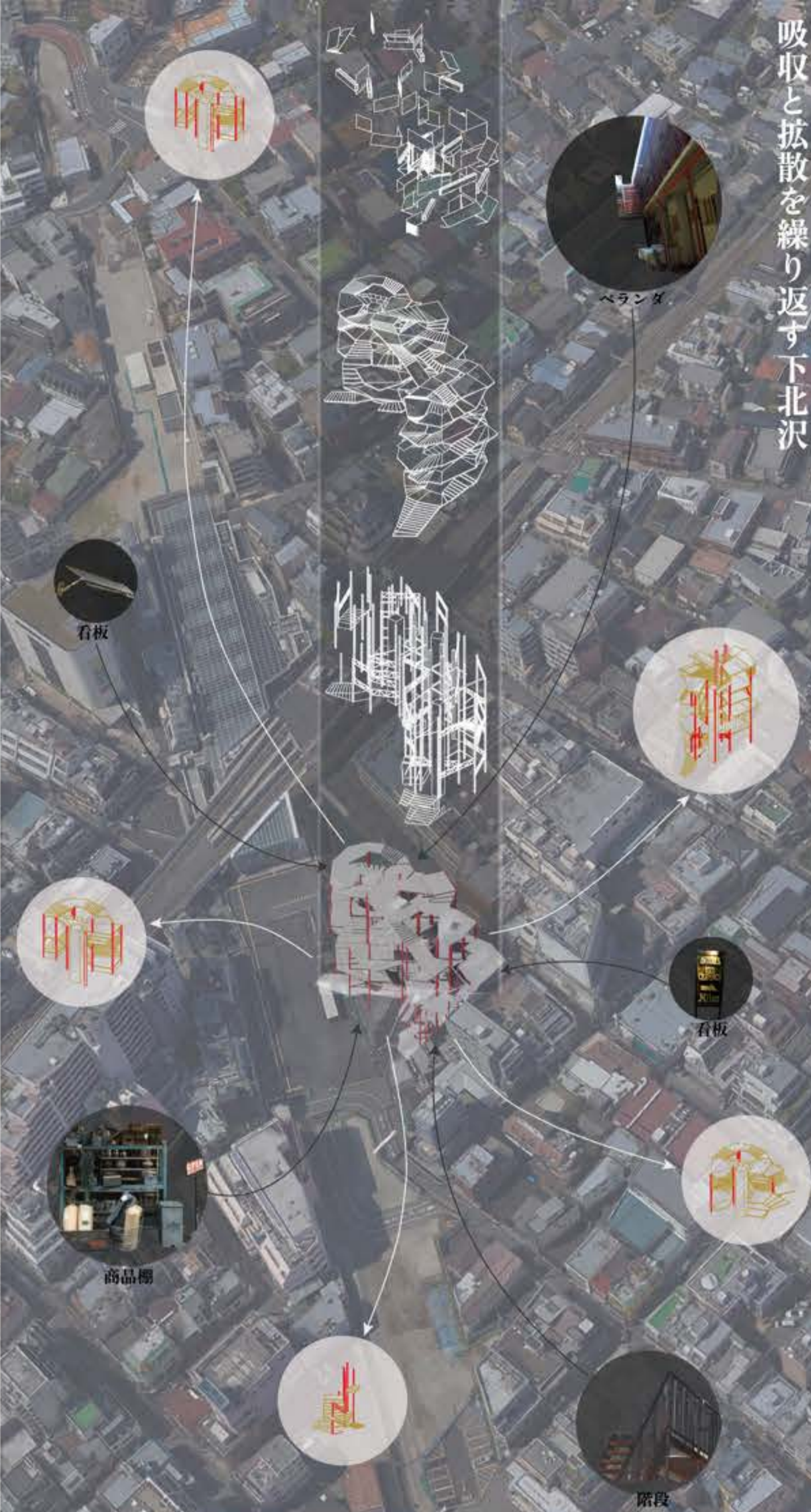




街の結節点となり人々をつなぐ



看板

ベランダ

看板

看板

階段

商品棚

階段

繫目を編む

〜昇りゆく下北沢〜



① 変化する街の姿を映し出し、

② 継承と更新を繰り返して、

③ 時代の繫ぎ目を編んでいく



駅を出ると、上へのびる階段が

店員さん、準備するの大変そう

どっちに進もうかな

閉店準備、頑張ってください

景色を眺めて、ちょっと休憩

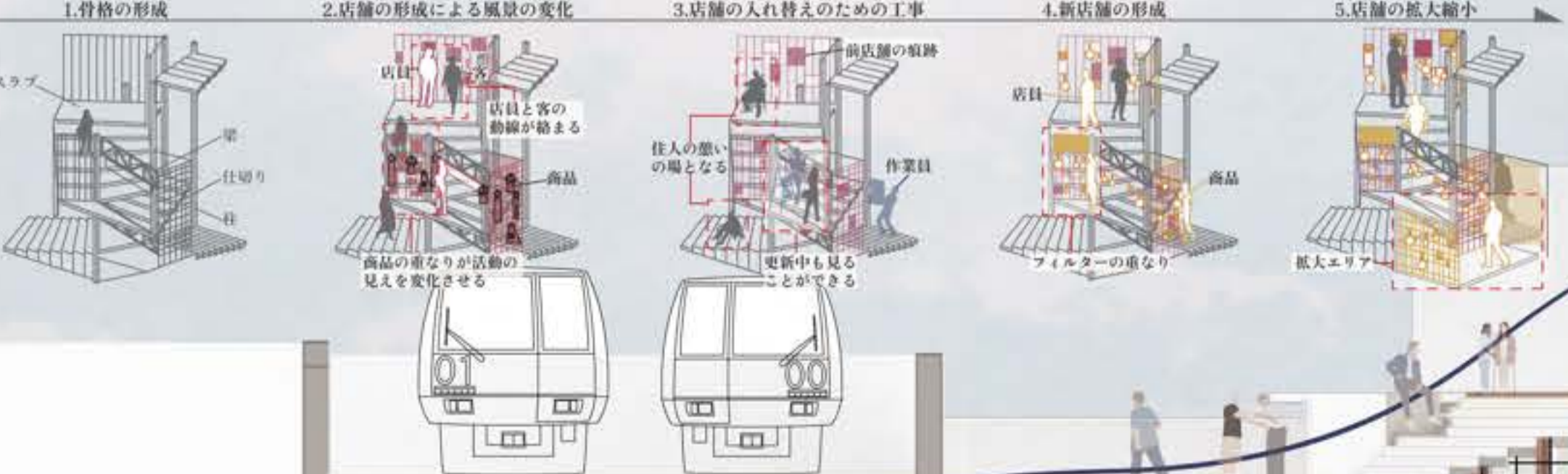
電車の音が聞こえる

一番上までたどり着いた

通った店が見下ろせる

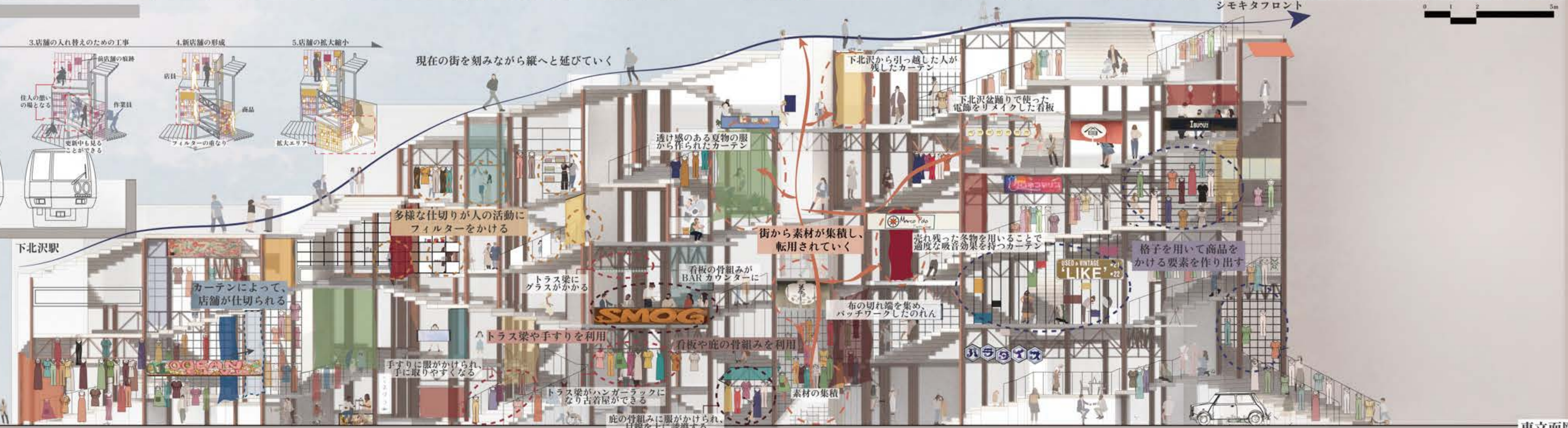
ELEVATION

店舗の更新



現在の街を刻みながら縦へと延びていく

下北沢駅



カーテンによって、店舗が仕切られる

多様な仕切りが人の活動にフィルターをかける

トラス梁にガラスがかかる

トラス梁や手すりを利用

手すりに服がかけられ、手に取りやすくなる

トラス梁がハンガーラックになり古着屋ができる

庇の骨組みに服がかけられ、目線を上に誘導する

街から素材が集積し、転用されていく

看板の骨組みがBARカウンターに

看板や庇の骨組みを利用

素材の集積

下北沢から引っ越した人が残したカーテン

透け感のある夏物の服から作られたカーテン

下北沢盆踊りで使った電飾をリメイクした看板

売れ残った冬物を用いることで過度な暖房効果を持つカーテン

布の切れ端を集め、パッチワークしたのれん

格子を用いて商品をかける要素を作り出す

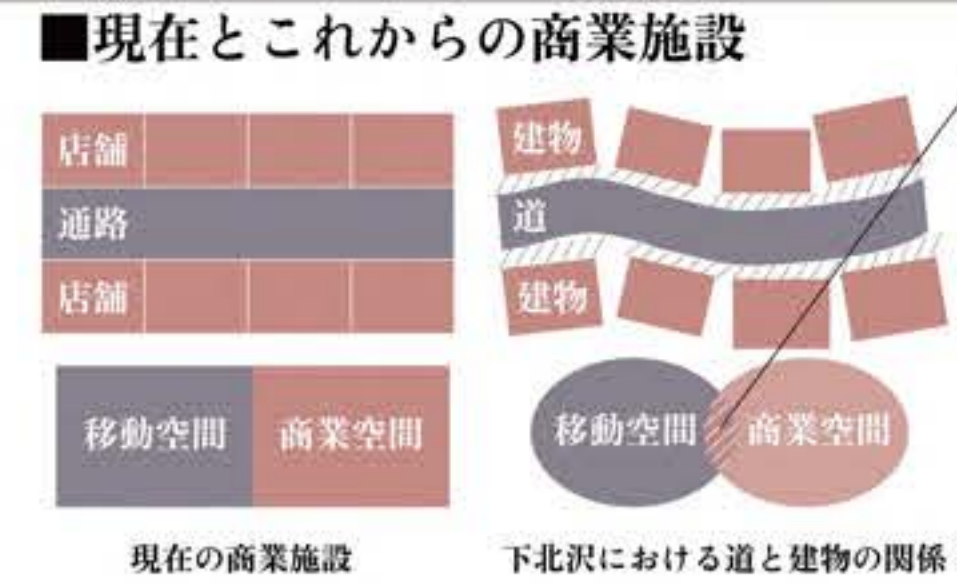
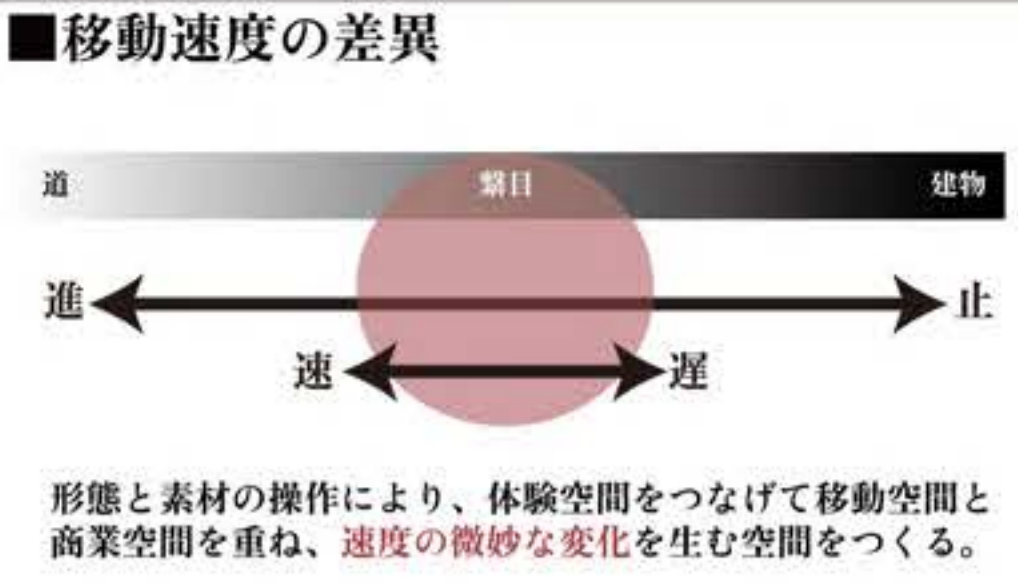
シモキタフロント



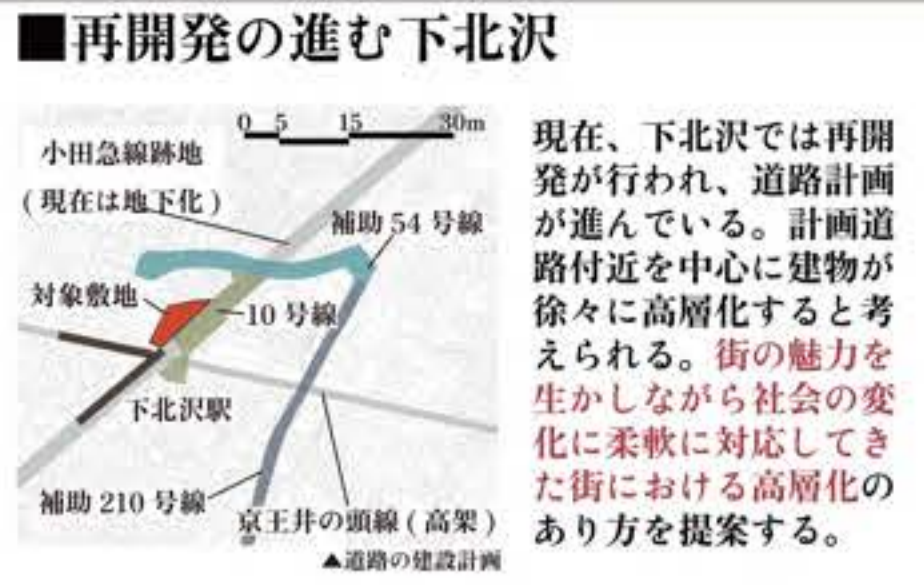
INTRODUCTION



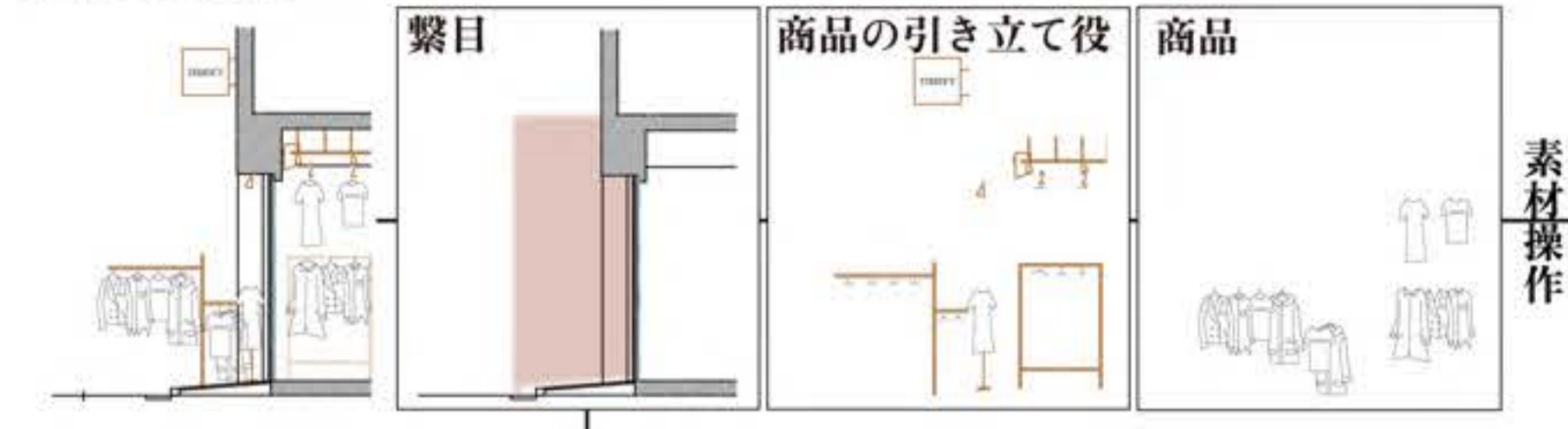
CONCEPT
継承と更新の狭間の建築化
 下北沢は古道の継承と連続的に起こる街の更新による小さな変化が集積するという2面性を持つ。継承と更新の狭間である道と建物の繋目が商業空間と移動空間の重なる部分になっている。この部分を建築化し、立体的な体験空間を作り出すことで、横から縦に広がり、新たな下北沢へと生まれ変わる。



商業と移動の重なり制限(戦争、法律、地形等)によって誕生し、度重なる店舗の更新によって商業空間が延長されている場所であり、商業空間と移動空間が重なっている。重なる部分で商業施設を構築することで、店員、客の動線が絡み、施設をめぐることが体験となる。ショーウィンドウ的な商業施設から解放され、新たな価値が生まれる。



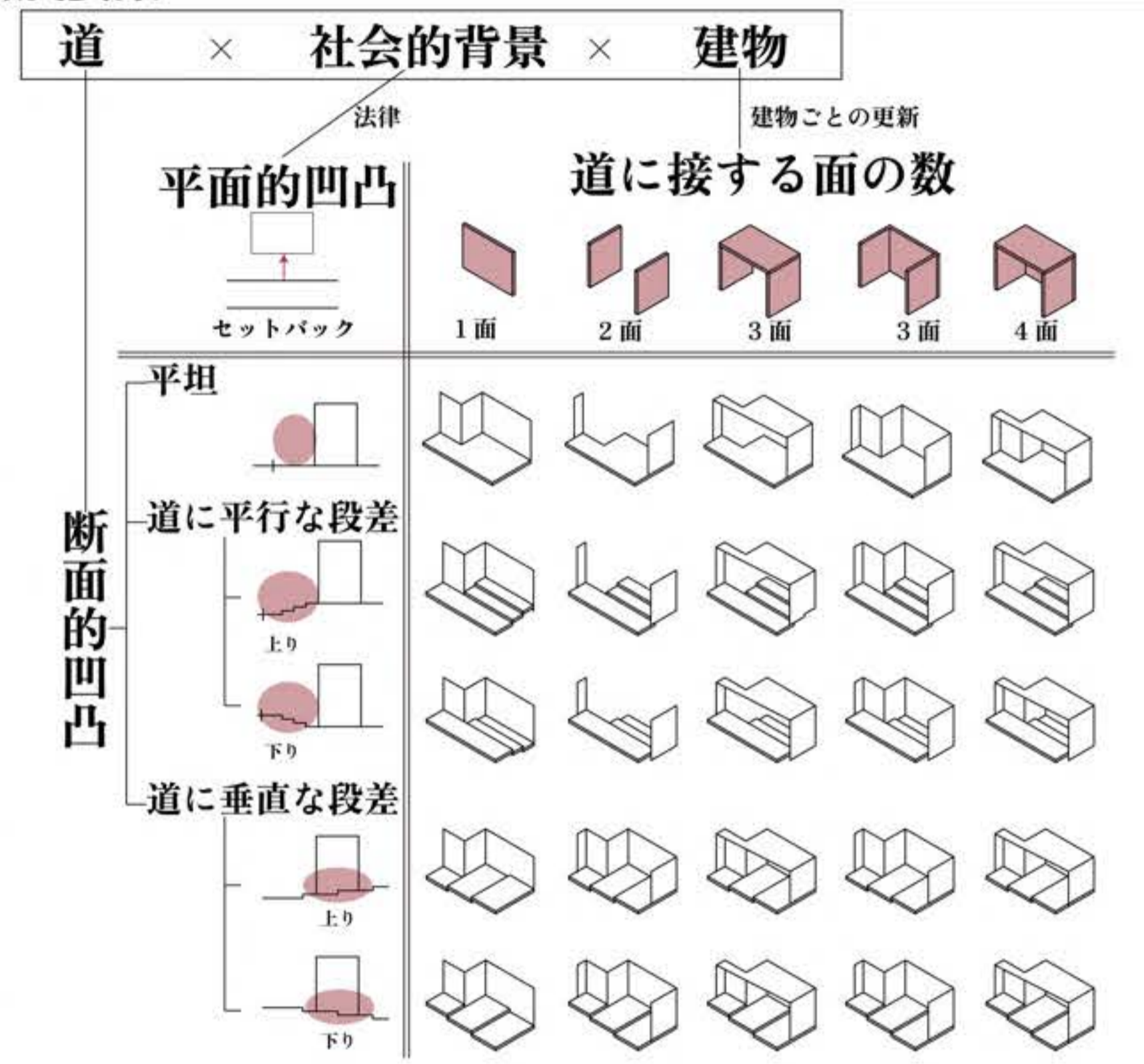
RESEARCH



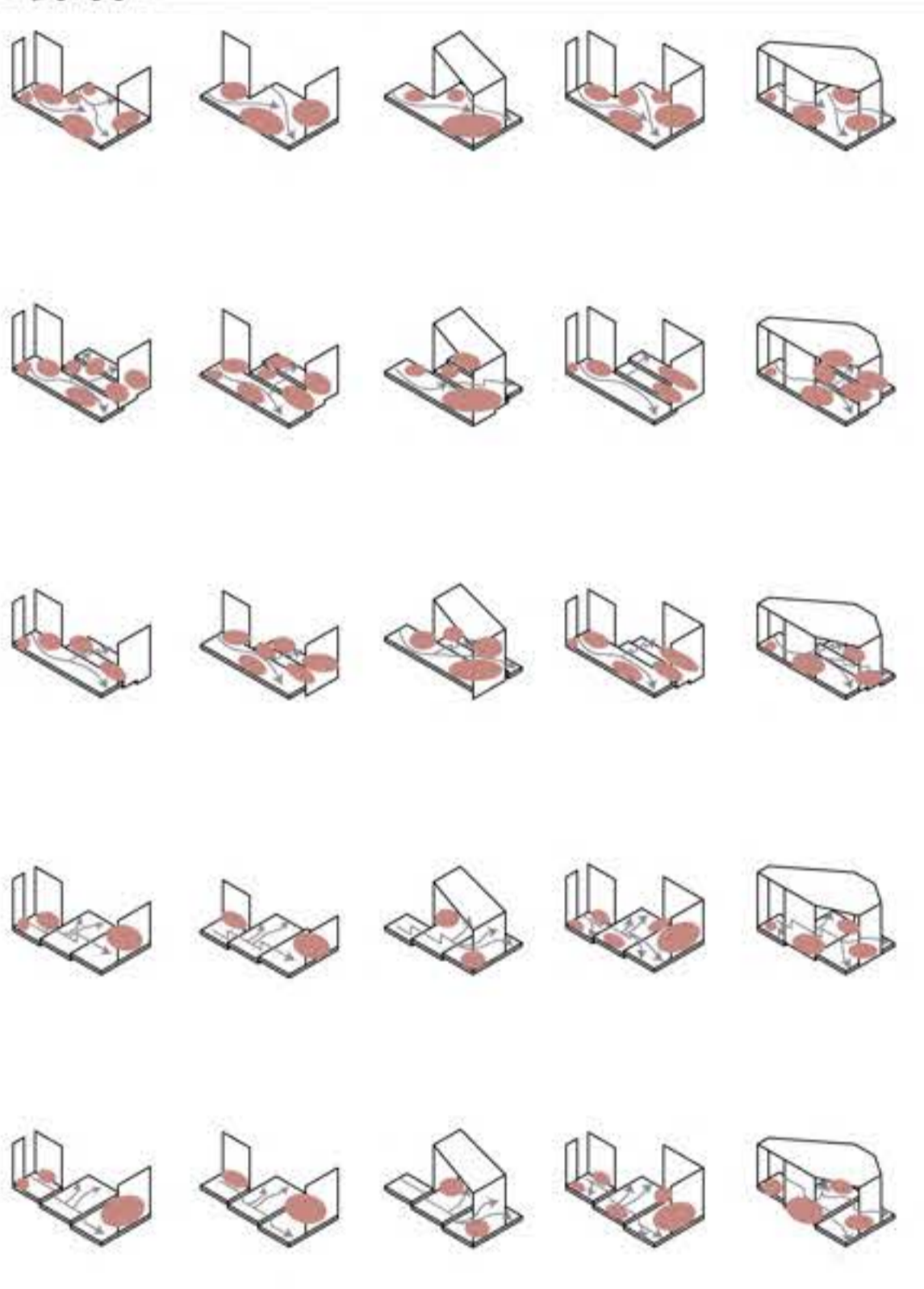
例



構成要素 分解



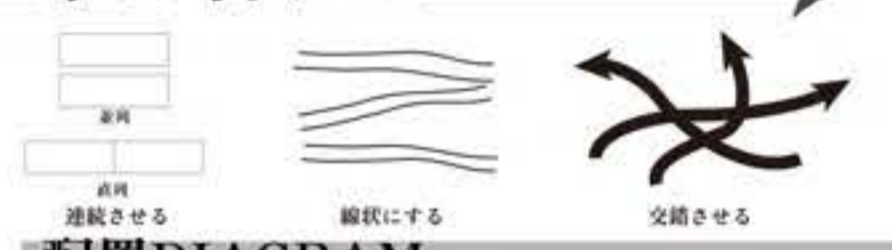
操作 面をずらす



面の素材を操作する



組み合わせ



配置DIAGRAM



SITE



PLAN

